



## 2009 Formula Nippon CERUMO/INGING Race Report 第2戦 鈴鹿サーキット

### ◆ 5月17日(日) Final

#### 決勝レース 結果

### #48 立川 祐路 リタイア

#### < フリー走行 > 天候:曇り | コース状況:ドライ

空一面曇りに覆われてはいるものの、新生鈴鹿サーキットに雨の気配は全くなく、気温も 20°Cまで上がってきている。コースには所々ウェットパッチは残ってはいるのだが、ほぼドライ路面でのフリー走行が始まった。

まずは決勝レースを想定したピットインシミュレーションを行い、その後車体セットアップの確認に入る。周回を重ねるごとに 1 分 52 秒台から 48 秒台、47 秒台へと着実にタイムも上がっていく。ここでチームは立川をピットへ呼び戻すと、完全にドライセッティングへとマシンを再セットアップ。30 分間のセッション残り 9 分でマシンをコースへ送り出した。立川は直ぐさま 1' 45.237 を記録して 6 番手にポジションをアップさせる。その後、各チームともタイムを上げ、立川は結果 12 番手でセッションは終了となったが、最終ラップの東コースで好タイムを刻んでいるので、決勝レースへ向けての準備は整ったと言えるだろう。

#### < 決勝レース / 43 周 > 天候:雨 | コース状況:ウェット



非常に慌ただしいコースインとなった。小雨が降ってはいたのだが、併催 F3 レースがほぼドライ路面で行われた後、フォーミュラ・ニッポン決勝レース直前のウォームアップランが始まったところでサーキット全体を強い雨脚が叩いた。グリッド上のスタート進行でも雨は降り続け、期待されたドライコンディションでのレースはお流れとなってしまった。

14:33、決勝レーススタート。レッドシグナルブラックアウト。ホームストレートが一瞬にしてウォータースクリーンに包まれる。その中でなんと立川がエンジンストール。8 番グリッドから一気に 11

番手となってしまふ。前走車と間隔が開いた立川は 2 分 2 秒台で追い上げを開始、この時点で総合 6 番手のラップタイムである。しかし、勢い余った立川は 4 周目の 1 コーナーで単独スピン、コースアウトはしたものの、うまく体勢を立て直しコースに復帰、しびとい走り周回を重ねると、10 周目には 10 位にポジションを上げた。

14 周目、前に行くペースの上がない#7 国本(LeMans)を追い詰めると、15 周目の S 字コーナーからテールトゥーノーズでプレッシャーを与える。西コースに入り少々離されたように見えたのだが、スプーンコーナーで追いつくと一気にインを刺す。立川のマシンが大きく振られた。何とか立川はコース上に留まり、ポイント圏内を目指した走りは仕切り直しとなってしまった。

17 周目に再度国本に追いついた立川と、前半のアクシデントにてノーズ交換後、最後尾からの追い上げを図っていた#32 小暮(NAKAJIMA)が三つ巴の戦いになる。3 台は縦列でヘアピンカーブに進入して行く。何とここで後方から小暮が立川に追突。両者ともにコースアウト、低速コーナーではあったがグラベルに捕まり、残念ながら立川はここでリタイアとなってしまった。雨の決勝レースは、ポールポジションスタートの#2 B・トレルイエ(IMPUL)を仕留めた#31 L・デュバル(NAKAJIMA)が優勝を飾った。

### ドライバー／#48 立川 祐路

「全くグリップしなかった。予選の時より水の量は少なかったのに……、ちょっと原因がわからないんだけど、昨日の方がきちんとグリップしていたんだ。本当にプッシュし続けていたんだけどペースは上げられなかった。キチンと原因を見直して次のレースをがんばるよ。」

### 監督／竹内 浩典

「あんまり良い状態で走らせてあげられませんでした。コース状況の変化に対応できず課題が多く残ったレースとなってしまいましたね。最後のアクシデントもなるべくしてなったのかもしれませんが、このレースを検証し直して、次のレースに望みます。」

